

2013年度 グローバル・コミュニケーション学部
教育、研究、社会貢献活動に関する自己点検・評価結果について

I. 教育活動

学部開設3年目に当たる2013年度の教育活動は、2012年度に引き続き、各教員がシラバスに記載した授業の概要や到達目標を踏まえ、教育効果を最大限に上げるべく鋭意努力した。具体的には、適切なテキスト教材と補助教材、パワーポイント、e-classなどの授業支援ツールの幅広い活用による教育効果の向上に努めた。演習系、講義系いずれの授業においても、頻繁な課題提出、クラスディスカッション、ペアワークやグループワークなどのアクティビティの実施などを通して学生の積極的な授業参加を促すと同時に、教員からも必要なフィードバックを与え、学生のアクティブ・ラーニングを建設的に促す工夫を講じた。開設3年目の本学部教育活動を総括すると、学生参加型の授業運営が定着しつつあると言える。

なお、英語コース、中国語コースの学生は、1年間のStudy Abroadが必修であり（英語コースは2年次、中国語コースは2年次秋学期から3年次春学期）、また、日本語コースの学生は海外からの留学生であるという学部の特性に留意した教育指導方針として、1年次の授業出欠状況に関する情報共有を組織的に行い、指導が必要な場合は、学生を適宜呼び出し、学生との対話を通じた教学指導を徹底した。

正課授業以外の教育活動の主なものとしては、学内外の留学生(AKP留学生、同志社大学ILAの学生、マイアミ大学、ロチェスター工科大学の留学生など)との国際交流イベントの実施を通じ、異文化理解、異文化コミュニケーションのための環境を整えた。また、学生ボランティアによる本学部学会冊子「Cosmos」の編集の際にも、教員によるきめ細かい指導を行うことによって、学生とのコミュニケーションの活性化を図った。

II. 研究活動

教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。(詳細は、本学研究者データベース参照。URL: <https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/>)

III. 社会貢献活動

多くの教員が、学会運営のための委員職などを通じた学外の社会活動に積極的に関わった。また、「京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ」の講座や高等学校からの要請による模擬講義への協力を通して、幅広い社会貢献活動を展開した。更に、京田辺キャンパスにおける同志社京田辺祭での学部独自企画の開催を通して、地域社会への貢献も積極的に行うことができた。